

学生会員の 声

●化学工学と出会い、研究室で感じたこと●

本稿では、私が化学工学の道に進んだ経緯とどのような研究室生活を送ってきたのか、また現在、化学工学についてどのように感じているのか記したいと思います。この文章が学部生や大学院生の進路決定の手助けになれば幸いです。

私が化学工学の道に進もうと決意したのは、学部4年生での研究室配属の時でした。その頃の私は、将来自分が何をしたいのか鮮明なイメージを持っていませんでした。そのため、有機化学や無機化学など特定の道に進むよりは、モノ作りでどのような分野でも役に立ち得る化学工学を学びたいと考え、現在所属している粒子流体工学研究グループを希望しました。

研究室に所属した当初は、繊維に関する研究に取り組みました。この時はまだ化学工学が社会でどのように役立てられているのか漠然としたイメージしか持っていませんでした。

修士1年生では化学工学の知識が実際に社会でどのように役立てられているのか知るために生産技術職のインターンシップに参加しました。実際に社会で活躍されている技術者の方々の話を聞くと、多くの方が学部時代に使用していた化学工学の教科書をデスクの中に入れておくと話していました。大学の授業や研究室で学んだ化学工学の知識が社会に出てからも役立つということを、実際に働いている方々から教えられたことで、将来、生産技術者として活躍

するためにも、より一層化学工学の知識を深めたいと思いました。今思い出すと、このころから研究に対する取り組み方、特に研究室内のミーティングで他者の発表を聞く姿勢が変わった気がします。化学工学の知識が実際に社会に出てからも役立つと知り、より幅広い化学工学の知識を得たいと感じ、他者の発表を、より真剣に聞くようになりました。すると、それ以前は単語の意味などレベルの低い質問しかできていませんでしたが、内容に踏み込んだレベルの高い質問ができるようになりました。他者の研究をより真剣に考えることは、自身の研究をより真剣に考えることにもつながり、研究に対して考える力が向上したと感じます。これからも幅広い知識を身に付けたり、考える力を向上させたりするためにも他者の発表を聞く力を向上させたいと考えています。

最近では研究を進めるにあたり、今まで全く関わることの無かったプログラミングにも挑戦しました。はじめは、自分だけの力ではほとんど理解することができなかったのですが、周囲に助言を求めることでプログラミングを書き進めることができました。周囲の人々の知識を借りることの大切さを再確認しました。また就職活動でも、多くの会社の技術者の方が、プログラミング能力はとても重要なスキルだと話していたので、研究室で学ぶことがいかに社会で役立つのか実感しました。

現在までの研究活動や就職活動を通して、化学工学は物質やエネルギーの移動に関する学問であり、幅広い分野に影響を与えられると感じています。特にモノ作りにおいては、フラスコ規模から工場で生産するためのスケールアップをおこなう際や、製造をより効率的におこなう際など特に重要になると考えられます。化学工学の道を決めたきっかけは将来の自分の進む道が決まらず、幅広い分野で役立てそうだという不純な動機でしたが、現在では大学で学んだ化学工学の知識を基に技術者として社会で活躍したいと考えています。大学生活も残り半年という短い期間ではありますが、化学工学の研究に従事し、より化学工学の知識を深めていきたいと思っています。

(神戸大学工学研究科応用化学専攻博士前期課程2年
粒子流体工学研究グループ 武部真ノ介)